

令和7年度宮城県林業技術総合センター の機関評価結果について

令和8年6月2日
宮城県林業技術総合センター

事務・研究棟、研修棟（令和3年9月新築）

- 1 林業技術総合センターの概要
- 2 林業関係試験研究機関評価の概要
- 3 評価項目の状況と結果及び対応

(1)運営方針・重点分野等

(2)研究開発・技術支援体制

(3)研究者の確保・育成等

(4)研究施設・設備の状況

(5)産学官との連携

(6)研究成果の状況

(7)技術支援関係業務等の状況

(8)研究マネジメント等

(9)総合評価

(10)その他意見等

1 林業技術総合センターの概要

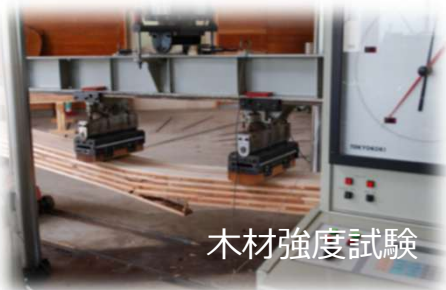
(1) 沿革

昭和8年5月	宮城県黒川苗圃造成（12.223ha）
昭和28年10月	宮城県農業試験場林業部設置 （仙台市宮城野区）
昭和37年5月	宮城県林木育種場設置（現在地）
昭和45年4月	宮城県農業試験場林業部と宮城県林木育種場を統合し、宮城県林業試験場として設置
平成20年4月	宮城県林業技術総合センターとして組織改編（総務、普及指導チーム、企画管理部、環境資源部、地域支援部）
令和5年4月	環境資源部及び地域支援部を「試験究部」に普及指導チームを「普及・研修部」に改組

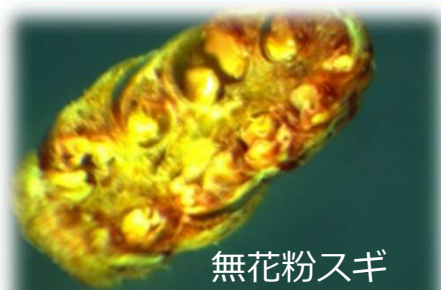
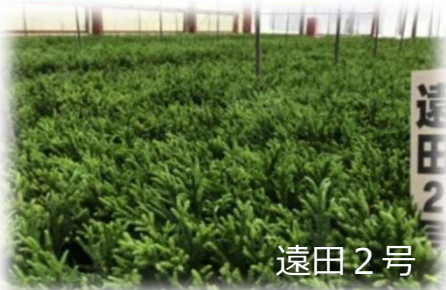
1 林業技術総合センターの概要

(2) 組織の役割

林業試験研究の推進



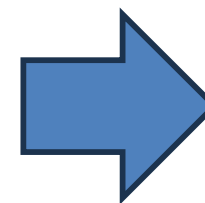
林業用種苗の開発と安定供給



林業技術の普及指導と人材育成



みやぎ森林・林業未来創造カレッジ

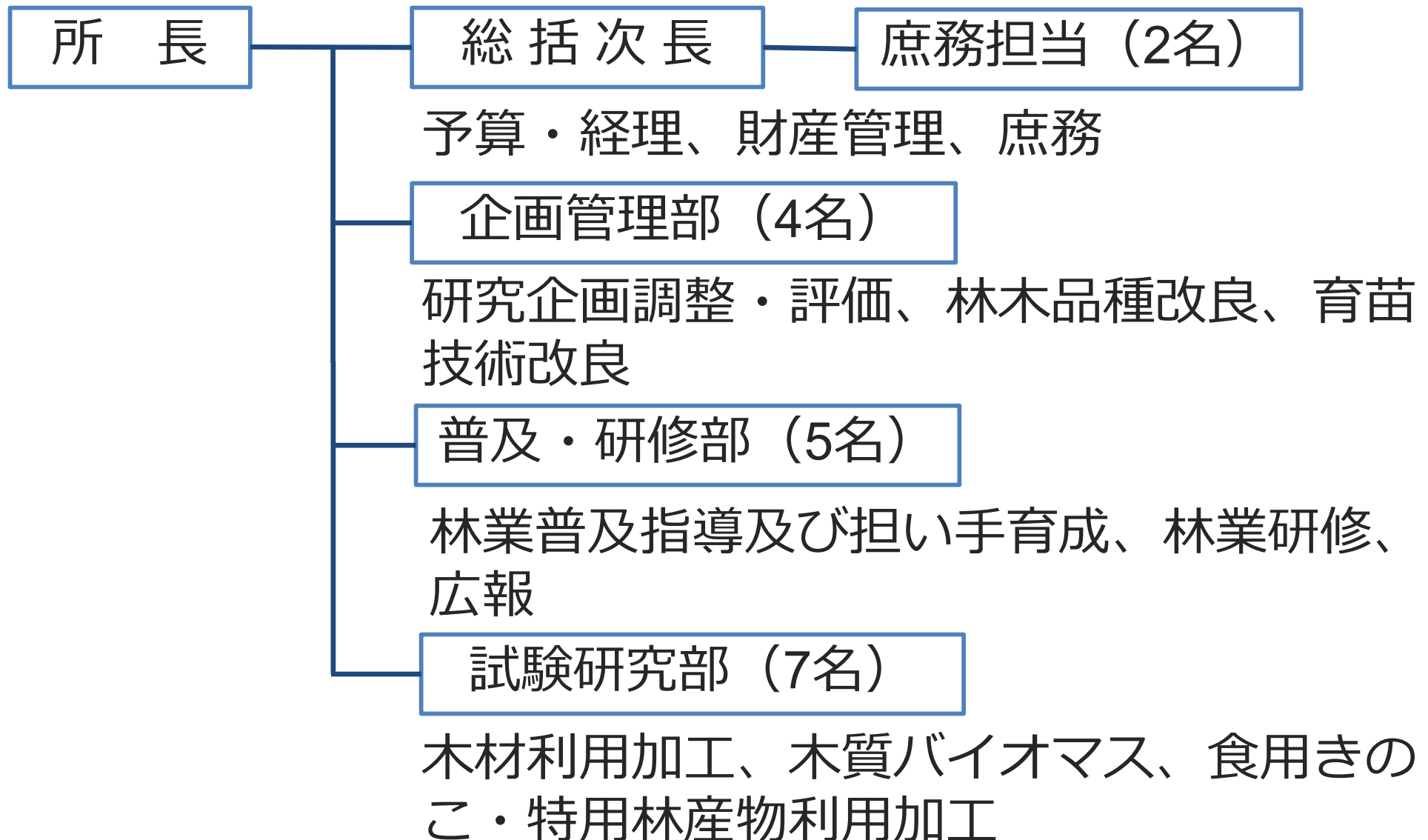


県民生活の向上と森林・
林業及び木材産業の振興



(3) 組織の現況

令和7年4月1日時点



2 林業試験研究機関評価の概要

1 開催日時及び場所

日時：令和8年1月13日 午後1時15分から午後4時10分

場所：宮城県林業技術総合センター研修棟研修室1

2 林業部会委員

陶山部会長、星委員、大内委員

3 評価項目

- (1) 運営方針・重点分野等
- (2) 研究開発・技術支援体制
- (3) 研究者の確保・育成等
- (4) 研究施設・設備の状況
- (5) 産学官との連携
- (6) 研究成果の状況
- (7) 技術支援関係業務等の状況
- (8) 研究マネジメント等
- (9) 総合評価
- (10) その他意見等

参考：評価基準

S:特に優れている

A:優れている

B:適切である

C:見直しが必要

D:全面的に見直すべき

3 評価項目の状況と結果及び対応

(1) 運営方針・重点分野等

1. 林業試験研究・技術開発戦略の体系

新みやぎの森林・林業の将来ビジョン（H30～R9）

→ 政策推進の基本方向

- 1 林業・木材産業の一層の産業力強化
- 2 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮
- 3 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成
- 4 東日本大震災からの復興と発展

センターでは...

宮城県林業試験研究・技術開発戦略（R元～R10）

→ 3つの基本方向、6つの重点テーマ

3 評価項目の状況と結果及び対応

2. 林業試験研究・技術開発戦略

基本方向	重点テーマ
1 林業・木材産業の一層の産業力強化をけん引する技術の開発	より優れた品質・性能の県産製品や新たな木材需要創出のための研究・利用技術の開発
	林業の成長産業化を実現する優良品種開発や県産木材の高度加工技術の開発
	森林情報の高度化・共有化に向けた研究・技術の開発
2 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮に向けた技術の開発	再造林等による適切な森林更新のための研究・技術の開発
	森林の適切な保全と多様で健全な森林へ誘導するための研究・技術の開発
3 震災からの復興と発展を支える技術の開発	海岸防災林の管理技術の確立と特用林産物の新たな栽培・利用技術の開発



3 評価項目の状況と結果及び対応

(1) 運営方針・重点分野等

評価 B：3名

適切である

●指摘事項・意見

- ・県のビジョンに適合した運営方針の重点分野が設定されているが、センターの規模に対して多岐にわたる分野が設定されているため、実現困難なレベルではないか危惧される。
- ・クマの人的被害の発生で、アーバンベア等従来とは異なる対応が求められているため、行政や県民からの問い合わせに対応できる資料整備や情報提供体制の構築が望ましい。
- ・新みやぎ森林・林業の将来ビジョンで掲げられている政策推進の基本方向の中から、現在、試験研究機関に求められているテーマが林業試験研究・技術開発戦略で示されている。



◎対応

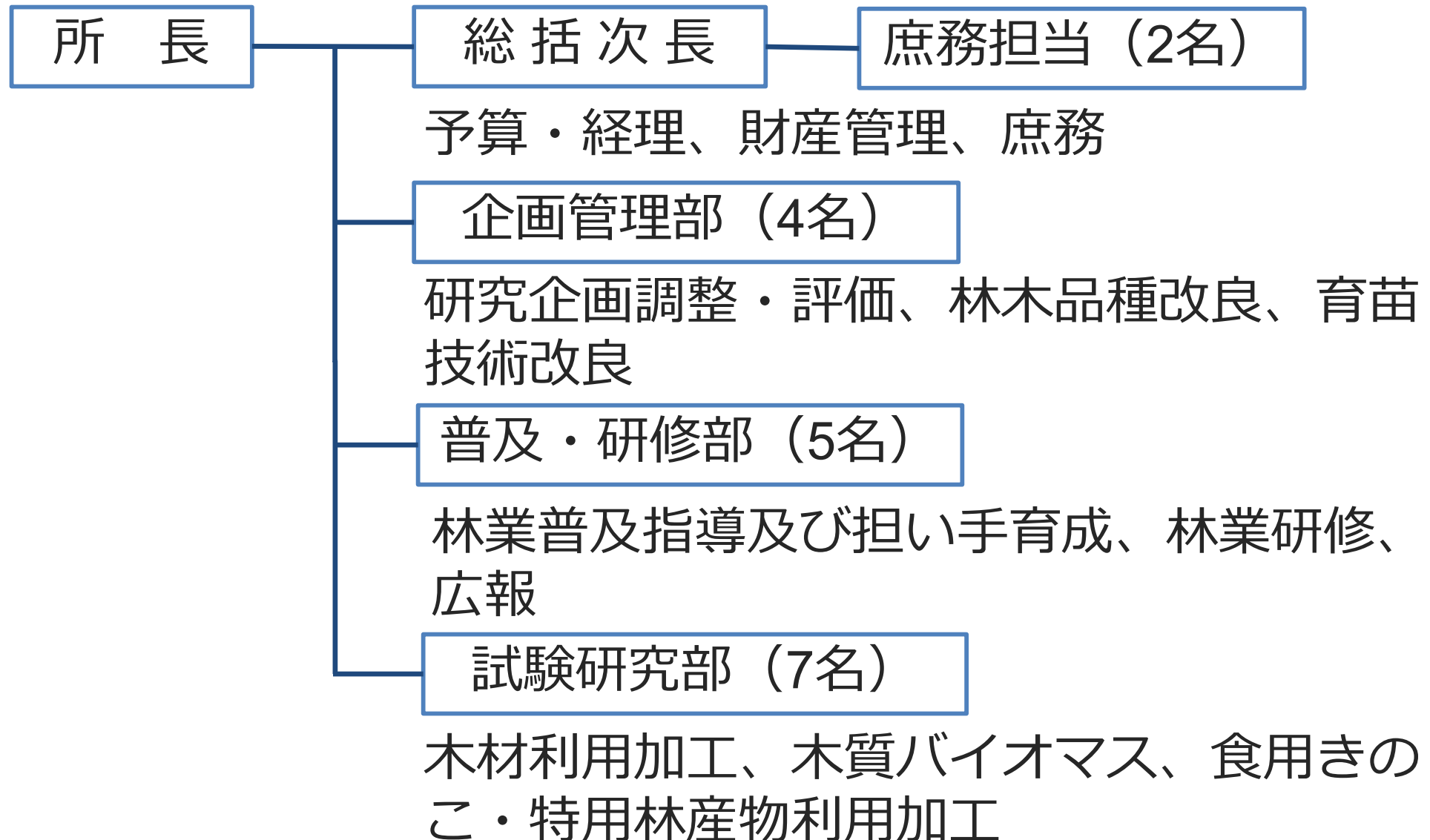
- ・新みやぎの森林・林業の将来ビジョンの基本方向を意識しながら、重点分野に予算や人員を優先配分するなど、規模に応じた試験研究の絞り込みを進めます。また、社会的関心の高い課題については、積極的に情報収集を行うとともに情報提供体制を整えます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(2) 研究開発・技術支援体制

1. 組織体制

令和7年4月1日時点



3 評価項目の状況と結果及び対応

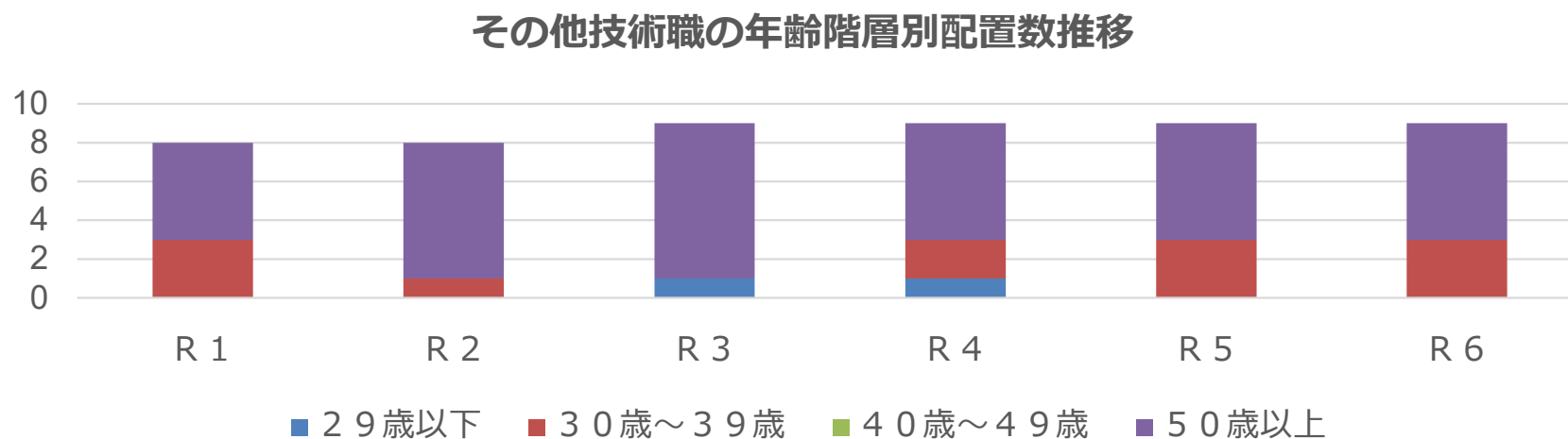
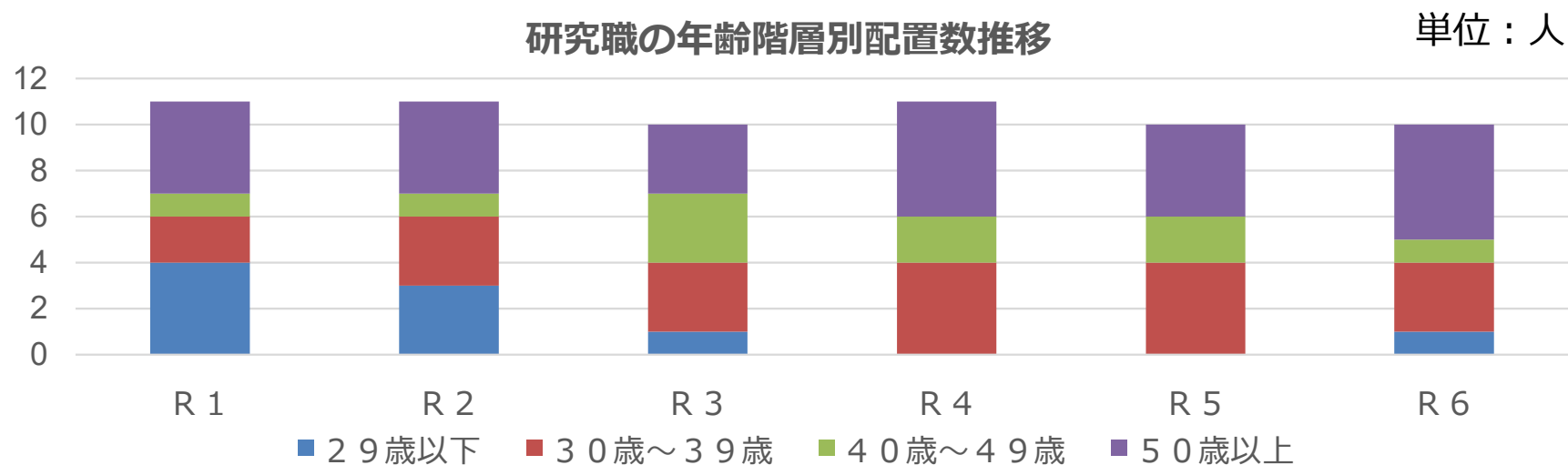
2. 職員の配置数の年度別推移 年度別配置職員数の推移

単位：人

年度別職員配置数	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
職員数	20	21	20	22	22	22	23	22	22
事務	3	3	3	3	3	3	3	3	3
技術	17	18	17	19	19	19	20	19	19
(内研究職)	12	12	11	11	11	10	11	10	10

3 評価項目の状況と結果及び対応

3. 技術職員年齢構成の推移

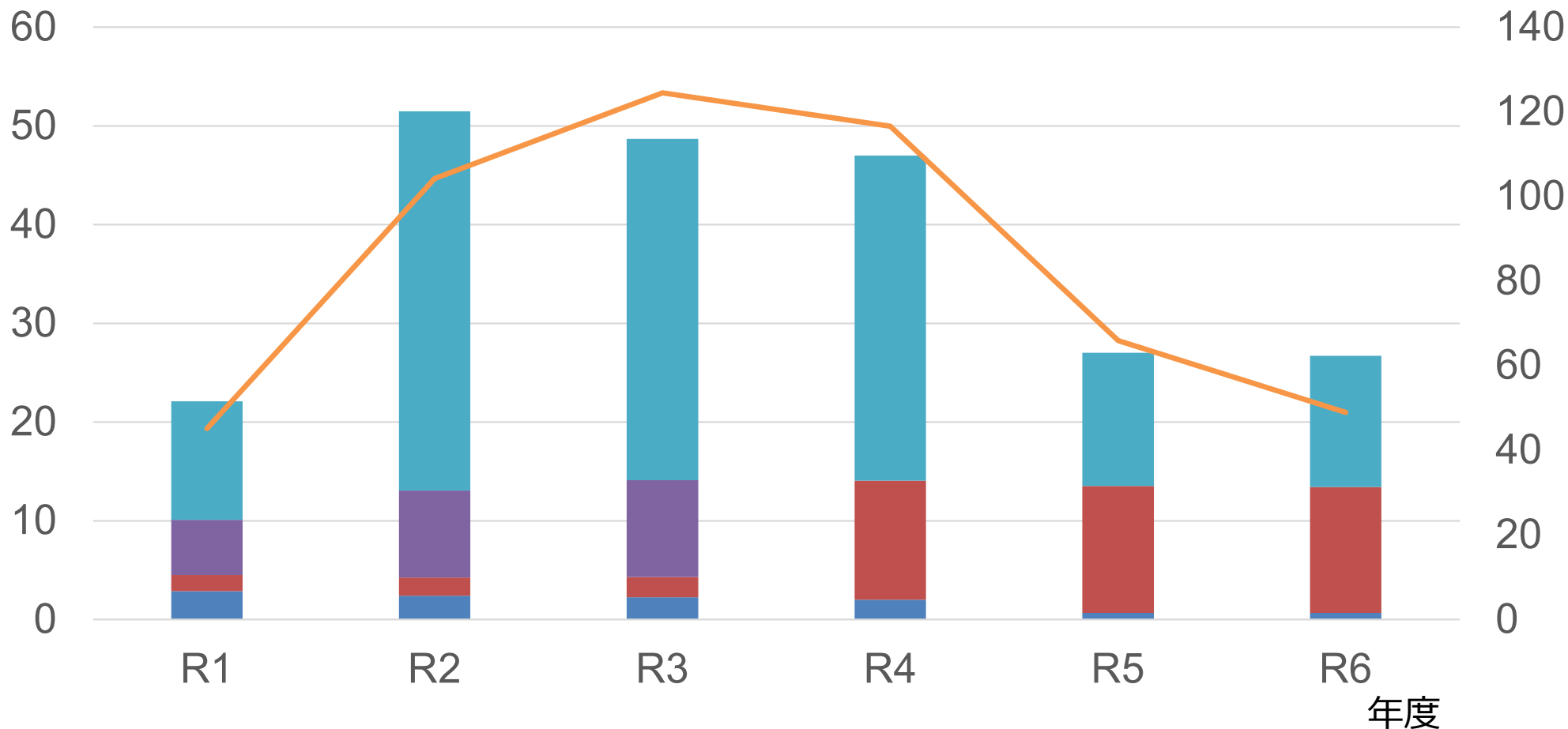


3 評価項目の状況と結果及び対応

4. 予算の推移

研究費等の推移
(百万円)

予算総額
(百万円)



■ 国庫補助金 (交付金含)
■ 受託
■ 関連事業

■ 県単独
■ 執行委任
— 予算総額

新本館建築9関連を予算
総額 (R2, 3) から除く



3 評価項目の状況と結果及び対応

(2) 研究開発・技術支援体制

評価 B：2名 C：1名 適切である

●指摘事項・意見

- ・ 現行の少人数体制では、運営方針や重点分野として設定されたすべての課題について対応できるとは考えにくい。が、コンパクトな組織の中で研究開発業務の管理は適切である。
- ・ 産休時の対応等女性研究者・技術職員が継続して働ける環境づくりが必要と考える。 専門分野の臨時職員の一時的な採用等、柔軟な対応で、よりよい体制づくりに期待する。
- ・ 職種上、転勤もあり研究者の人手不足の中、効果的な研究を進め、進捗管理が適切におこなわれている。
- ・ 予算の推移を見ると令和2年度から右肩下がりで推移していることから、研究予算を十分に確保してほしい。 その他表彰等は適切に行われている。



◎対応

- ・ 人員を考慮して実施すべき試験研究分野を絞り込み研究課題を設定します。また、センター内でのサポート体制を整え、職員が継続して働ける環境づくりを行うとともに、人事異動に備えた技術や知識の継承体制を整え、組織的な進捗管理を行って行きます。
- ・ 研究予算については、必要分を主務課と協議し、課題によっては森林総合研究所等と情報交換を行い、外部資金の獲得を目指します。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(3) 研究者の確保・育成

1. 研究員の研修状況

年度	研修先	研修内容	期間	派遣人員
R元～3		高齢級スギの材質評価方法・ 収縮率の試験体作成方法や測定手法の習得など	46日間	5名
R4～6		—		
R4～6	合計		0日間	0名

3 評価項目の状況と結果及び対応

2. 職員表彰等

年度	氏名・チーム名	表彰名	内容
R4	「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」推進チーム (7名)	水産林政部長表彰	「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」設立・運営による林業担い手の確保・育成に向けた取組
R5	目黒 渚	水産林政部長表彰	コナラ萌芽枝等の放射性物質推移に関する調査研究への取組
	名取 史晃 田中 一登	林業技術総合センター所長表彰	クロマツ海岸防災林の健全化に向けた調査研究
	山崎 修宜	林業技術総合センター所長表彰	雄性不稔（無花粉）スギ個体の作出と品種開発に関する研究への取組
R6	大西 裕二	林業技術総合センター所長表彰	県産スギのツーバイフォー材への利用・普及に関する取組
	更級 彰史 田中 一登 今埜 実希	林業技術総合センター所長表彰	第57回森林・林業技術シンポジウム開催への貢献
	山崎 修宜	林業技術総合センター所長表彰	少花粉スギ挿し木苗生産体制の整備
	目黒 渚	全国林業試験研究機関協議会 研究功績賞表彰	萌芽枝の放射性物質及びきのご新品種開発に関する研究
	佐野 美子 (会計年度任用職員)	全国林業試験研究機関協議会 研究支援功績賞表彰	宮城県産きのご品種の開発及び維持管理、その他試験研究業務への支援

3 評価項目の状況と結果及び対応

(3) 研究者の確保・育成等

評価 A : 1名 B : 1名 C : 1名 適切である

●指摘事項・意見

- ・異動があるため、長期間の研究に従事できない点が大きな問題である。研究員の研修が途絶えているのも残念である。学会、研究会への出席が増加していることは評価できる。
- ・研究成果に対して、表彰により意欲向上につながっていると考えられる。給与が上がる等の目に見える形での報償があるとモチベーションが上がるのではないか。

◎対応

- ・成果の社会実装を見据え、長期間、特定の研究分野に従事できる人事配置を要望するとともに、森林総合研究所からの指導や学会等への参加を促し、技術力向上を目指します。なお、優良な成果を上げた職員については、県の優良職員表彰等へ推薦しているほか、人事評価制度での評価が賞与に反映されています。



3 評価項目の状況と結果及び対応

(4) 研究施設・設備の状況

1. 土地の利用状況

区分	採種園	採穂園	試験林 展示林	樹木 見本園	実習林	苗畑	その他	計 (ha)
本場	10.5	7.3	5.9	1.2	37.0	13.1	11.7	86.7
色麻圃場	7.1	0.3			2.6	3.1	2.5	15.5
計	17.6	7.6	5.9	1.2	39.6	16.2	14.2	102.3



抵抗性クロマツ採種園



少花粉スギ採穂園



展示林 (広葉樹展示林)

3 評価項目の状況と結果及び対応

2. 主な施設と整備状況

施設名	建設年	規模	設備等	修繕等
事務・研究棟	R 3年	木造 2 階建 (CLT工法) 962m ²	執務室、研究室、会議 室など	—
研修棟	R 3年	木造平屋建 (CLT工法) 281m ²	研修室	—
木材利用加工 実験棟	H 元年	木造平屋 665m ²	実大強度試験機、ホッ トプレス、含浸装置な ど	H21 (改修) H29 外装改修
木材第 2 実験棟	H 9 年	木造平屋 141m ²	引張試験機など	—
きのこ栽培 実験棟	H 10年	木造平屋 196m ²	培地調整室、放冷室、 接種室など	H21 (改修)
ミストハウス	S 48年 S 49年 H 23年 R 3年 R 4年	各 1 棟 計606m ²	ミストかん水装置、電 熱温床装置	H25 鉄骨修繕 H28 透過外装交換
少花粉スギ半閉鎖 型採取園	R2年 R4年	3 棟 計300m ²	散水装置、温度口ガー	R2 2棟 R4 1棟 各棟100m ²

3 評価項目の状況と結果及び対応

3. 参考 林業技術総合センター予算表

単位：千円

区分	R1~3 平均	R4	R5	R6	R4~6 平均	備考
総額	91,263	116,601	65,926	48,966	77,162	
試験研究費	43,105	46,989	27,014	26,721	33,574	
国庫補助金 (交付金)	2,516	2,004	679	673	1,118	
県単独	1,844	12,073	12,843	12,754	12,556	
受託	0	0	0	0	0	
執行委任	8,067	10,586	11,296	11,065	10,982	
関連事業	30,679	22,326	2,196	2,229	8,917	
林業技能者の育成 研修	—	4,257	2,229	1,366	2,617	
材木育種等事業費	11,511	18,368	839	719	6,642	
研修事業費	308	759	343	191	431	森林・林業講座 施設一般公開など
管理費	36,339	46,219	34,737	19,940	33,631	事務費、管理費など
その他	—	9	764	29	265	



3 評価項目の状況と結果及び対応

4. 主な機械・器具～近年の主な備品整備状況～

年度	用途	名称	構造又は規格	取得価格(円)	取得年月日
R4	研究	フリーザー付薬用保冷庫	PHC (株) MPR-N250FSH-PJ	407,000	R4.8.10
R4	種苗 生産	パイプハウス	間口3間×奥行き 12間	2,442,000	R5.1.10
R5	測量 器具	レーザー距離計測器	(株)阪神交益 ツールパルス 200L	271,590	R5.8.8
R5	研究	精密万能試験機	(株)島津製作所 オートグラフAGX -100kNV2	8,421,490	R6.3.19
R6	研修	ハーベスタシミュレータ	(株)小松製作所	22,242,000	R6.7.30
R6	研究	オートクレーブ	アルプ (株) KTR-2346B	251,350	R6.9.27

3 評価項目の状況と結果及び対応

(4) 研究施設・整備の状況

評価 B：3名

適切である

●指摘事項・意見

- ・パイプハウスやハーベスタシミュレータなど、近年も設備等の整備が認められる。事務研究棟の新設で研究環境は大幅に改善されたが、各分野の細々とした研究施設・機器等は十分とは言えない。
- ・研究設備の整備については、研究分野の技術進歩、費用対効果の観点から柔軟に対応する必要がある。一方、民間で対応できない試験など公的試験機関としての機能を果たすことが必要であり、役割を適切に整理して設備の充実を図ってほしい。
- ・十分な施設ではないと思うが、計画的に施設整備を進めている。



◎対応

- ・研究内容の変化に合わせて施設・機器を整備することが困難な場合もあり、県試験研究機関それぞれの施設・機器の使用が可能となるよう情報共有を図っています。なお、公的試験研究機関としての機能を果たせるよう、特徴的な業務に活用する施設・機器の計画的な整備に努めていきます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(5) 産学官との連携

1.産学官連携による研究実績：予算（千円） () 内件数

区分	R元~3	R4	R5	R6	R4~6計
公募型研究	0	0	0	0	0
共同研究等 (民間・団体)	2,926(7)	132(1)	100(1)	100(1)	332(3)
国立大学法人等との連携 (受託含む)	18,845 (13)	5,246(3)	670(2)	1,272(3)	7,188(8)
行政との連携	79,235 (32)	44,359 (11)	25,453 (11)	25,688 (11)	95,500 (33)
行政との連携 (国庫補助金)	6,364(6)	1,716(2)	540(2)	354(1)	2,610(5)
合計	107,370 (58)	51,453 (17)	26,763 (16)	27,414 (16)	105,630 (49)

参考 共同研究一覧：予算（千円） ()内計上期間

課題名	相手機関	研究期間	研究予算
CLT等関連新技術・製品開発事業	宮城県CLT等普及促進協議会	R2~10	332(R4~6)
宮城県におけるカラマツの生息適地の検証等に関する調査	(大) 東北大学	R3~7	904(R4~6)
海岸防災林の公益的機能評価	(国研) 森林研究・整備機構	R6~8	567(R6)
		合計	1,803



3 評価項目の状況と結果及び対応

2. 林業普及指導における連携実績

プロジェクト名称	実績 (人)	活動概要
		目的
森林経営管理制度及び市町村森林計画推進民国連携	52	森林経営管理システムの推進や市町村森林整備計画の実行管理への支援
林業雇用・所得向上	128	林業事業体における安定した事業量と事業収益の確保に基づいた作業員の雇用改善に向けた取組支援
みやぎ森林・林業未来創造力レッジ	913	林業を志望する若者や知識・技術の習得、技能向上を目指す既就業者等多様なニーズに対応した研修を実施
計	1,093	



市町村森林整備計画・民国連系PTの様子



しいたけ原木林再生PT
(コナラ植栽)



一貫作業によるコンテナ苗植栽（低コスト造林）

3 評価項目の状況と結果及び対応

(5) 産学官との連携

評価 S : 1名 A : 1名 C : 1名 優れている

◎指摘事項・意見

・ 公募型研究等、独自の取組による外部資金の獲得などは行われていない。組織の規模から新規の外部研究資金の獲得は現実的ではない可能性が高いため、経常研究を補完するような研究として、外部と連携・交流することが望ましい。

・ 無花粉スギの品種開発に関する研究においては、東北大学農学部が有するDNA鑑定設備を活用し、F2世代の確認作業の効率化が図られている。高度な研究設備を外部機関と役割分担のもとで活用する取組であり、産学官連携によって研究の効率化と高度化を同時に実現している好例として評価出来る。

・ 産学官連携、共同研究などを行い、効率的な研究に活かされている。



◎対応

・ 試験研究レベルの維持向上のため、引き続き外部研究機関との連携・交流を進めていきます。なお、試験研究において、外部研究機関の技術活用は欠かせないものであり、今後とも産学官連携により研究内容をより優れたものにするよう努めていきます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(6) 研究成果の状況

1. 過去3年間の研究課題～木材加工分野～

課 題 名	開始	R4	R5	R6	終了	摘 要
ツーバイフォー建築に求められる県産スギ部材の開発	R2	→			R4	県単
建築物木造・木質化推進のための県産スギ部材の開発	R5		→		R7	県単
高齢級スギ林分の施業に応じた材質特性及び活用方法に関する研究	R4			→	R6	県単

(木材の強度性能)

「ツーバイフォー建築に求められる県産スギ部材の開発」ほか

- ・ JASに基づく強度試験を行い性能調査したところスギ甲種2級以上の強度基準を満たし鉛直材として十分な性能を有しSPFと代替可能であることが明らかとなった。

(木質資源の有効活用)

「高齢級スギ林分の施業に応じた材質特性及び活用方法に関する研究」

- ・ 手入れが省略された林分から得られる材の特性について、70年生スギ林分の生長の異なる個体を対象に収縮率と節の調査を行ったところ、成長量の異なる個体では収縮率及び節の分布が異なることが明らかとなった。



3 評価項目の状況と結果及び対応

1-2. 特許取得・品種登録等の状況～特許利用実績～

特許の名称	登録年月日	利用実績（～R6）
改質木材の製造方法および改質木材（難燃処理した内装用木材）	平成 9年 8月 1日 (H24.8.1権利放棄)	6m ³
木質パネル，土留部材および木材固定工法（間伐材を利用した土留め部材）	平成16年10月29日 (H28.10.29権利放棄)	435m ³
横棧用補強木材および防護柵（間伐材を利用した転落防護柵）	平成16年10月29日 (R5.5.14期間満了)	22,778m (8)

() 内はR4~6実績



3 評価項目の状況と結果及び対応

2. 過去3年間の研究課題～特用林産分野～

課 題 名	開始	R4	R5	R6	終了	摘 要
特用林産物における放射性物質の汚染状況調査及び蓄積抑制に関する研究	R4	→	→	→	R8	県単
県内しいたけ原木林の利用再開に向けた放射性物質に関する研究	R5	→	→	→	R9	執行委任
ハタケシメジ新品種の栽培技術の確立	R6	→	→	→	R10	執行委任
しいたけ原木林の利用再開に向けた萌芽枝等の放射性物質推移に関する研究	H30	→	→	→	R4	執行委任
宮城県産きのこの新品種開発 —ハタケシメジ野外栽培品種—	R元	→	→	→	R5	執行委任

(特用林産物における放射性Cs対策)

「しいたけ原木林の利用再開に向けた萌芽枝等の放射性物質推移に関する研究」
ほか

- ・ 発生前の原木等及び発生した子実体のCs濃度と含水率を測定、品種ごとの子実体のCs濃度及び移行率を調べた。
- ・ 萌芽枝と葉、当年枝の間に非常に強い相関関係を見いだした。また、萌芽枝全体の推移から近似式を求め、今後の萌芽枝濃度推移の目安としての将来予測値を算出することができた。
- ・ 萌芽更新した場合でも伐採時期が原発事故の前後では濃度推移の傾向が異なる可能性が示唆された。

(「みやぎのキノコ」の技術開発)

- 「宮城県産きのこの新品種開発—ハタケシメジ野外栽培品種—」ほか
- ・ 交配育種により新品種（LD3号候補）の開発に向けて野生株の選抜試験を行った。
 - ・ LD2号と選抜菌株またはLD1号を親株として交配を行い490の交配株を作出した。
 - ・ 現地栽培可能と考えられる交配株を選抜し、さらに菌株の安定性試験、食味試験によってLD3号候補1株及びその予備菌株2株を選定した。



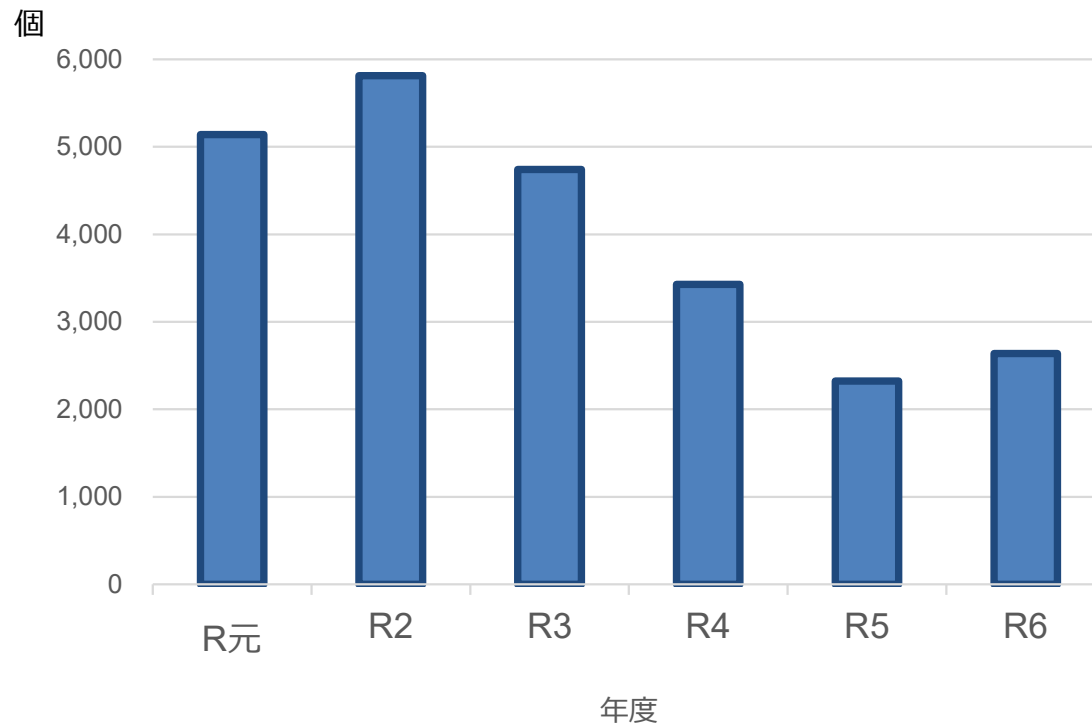
3 評価項目の状況と結果及び対応

2-2. 特許取得・品種登録等の状況～登録品種利用実績～

登録品種の名称	登録年月日	生産実績 (R4～R6)
みやぎLD2号 (空調栽培用ハタケシメジ)	平成18年12月14日	8,389 個 (菌床)

区分	R元～3計	R4	R5	R6	R4～6計
LD2号母菌配布実績	79ビン	12ビン	13ビン	8ビン	33ビン

菌床の生産実績



3 評価項目の状況と結果及び対応

3. 過去3年間の研究課題～経営機械・森林保護分野～

課 題 名	開始	R4	R5	R6	終了	摘 要
ニホンジカの効率的な捕獲方法に関する検討と実証	H30	→			R4	国庫交付金
ニホンジカの誘引餌に関する調査	R5		→	→	R7	国庫交付金
ニホンジカの食害を受けた森林の更新に関する調査	R3	→	→		R5	国庫補助

(ニホンジカ管理)

「ニホンジカの効率的な捕獲方法に関する検討と実証」ほか

- のべ14箇所です誘引くくりわなの実証実験を実施し8箇所ですシカを捕獲できた。同年度の同地域の捕獲効率と比較可能な箇所のうち半数以上の箇所で比較対象の捕獲効率の値を大きく超える結果が得られ、誘引くくりわなは効率的な捕獲方法に適していると考えられた。
- 防鹿柵内外の天然更新木発生状況調査を実施し、防鹿柵外は強度な採食圧が継続しており天然木の稚樹も発生していないことから牡鹿半島の天然更新による早期の森林復元は困難と考えられた。



3 評価項目の状況と結果及び対応

4. 過去3年間の研究課題～林木育種分野～

課 題 名	開始	R 4	R 5	R 6	終了	摘 要
スギ及びクロマツの第二世代品種開発に関する研究	H30	→			R 4	県単
雄性不稔（無花粉）スギ個体の作出と品種開発に関する研究	R 4	→	→	→	R 7	執行委任
スギ特定母樹及びクロマツ第二世代品種の開発（第Ⅲ期）	R 5		→	→	R 9	県単

（雄性不稔スギ品種の開発）

「雄性不稔（無花粉）スギ個体の作出と品種開発に関する研究」

- ・無花粉スギ品種「爽春」と「栗原4号」から雄性不稔個体が確認されたことから、挿し木増殖と採種園の造成を行い品種登録に必要な検定林設置に向けた準備を進める。

（性質の優れた第二世代品種の開発）

「スギ特定母樹及びクロマツ第二世代品種の開発（第Ⅲ期）」

- ・スギ次代検定林から基準を満たす特定母樹品種を選抜し採種園の改良を図る。
 - ・第一世代抵抗性クロマツ同士の交配により抵抗性が強化された第二世代品種を作出し、採種園の改良を図る。
- 「スギ及びクロマツの第二世代品種開発に関する研究」
- ・スギについてはDNA調査等を実施し、本県精英樹家系の4個体を選抜した。
 - ・クロマツについては当県及び福島県由来の8家系の第一世代抵抗性クロマツを人工交配し、F1を2,757個体作出した。

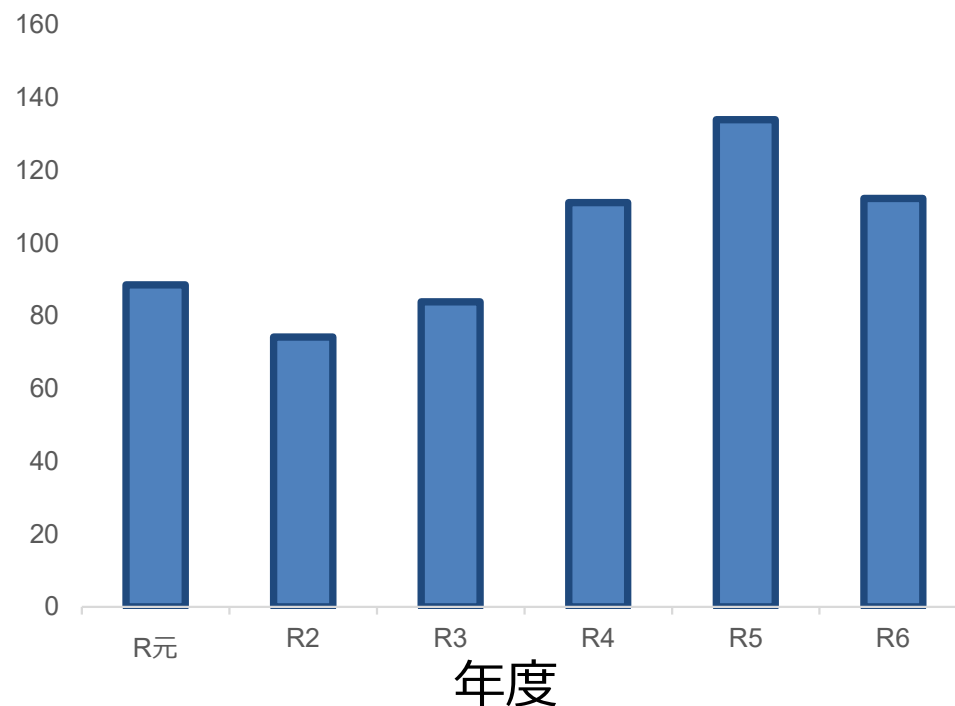


3 評価項目の状況と結果及び対応

4-2. 特許取得・品種登録等の状況～林業用品種利用実績～ スギ花粉対策品種

種類	品種の数	摘要
少花粉品種	刈田1号, 宮城3号, 玉造8号, 加美1号, 遠田2号	平成27年度に2品種追加
特定母樹品種	スギ東育宮県2-529号など4品 種	R2～3に各年度2品種追加 精英樹から選抜された特性の優れた種

千本 少花粉スギさし木苗出荷実績



ミストハウス内での挿し付け状況

3 評価項目の状況と結果及び対応

5. 過去3年間の研究課題～育林・森林管理分野～

課 題 名	開始	R4	R5	R6	終了	摘 要
生育基盤盛土を伴うクロマツ海岸防災林の健全化に向けた調査	R2	→			R4	執行委任
宮城県におけるカラマツの生育適地の検証等に関する調査	R3	→	→	→	R8	執行委任
低密度植栽技術の検証に関する調査	R5	→	→	→	R9	執行委任
海岸防災林の生育状況等に関する調査	R5	→	→	→	R8	執行委任

(森林育成)

「低密度植栽技術の検証に関する調査」

- ・ 植栽密度1,500本/haにおける苗木代の比較、造林作業効率の比較等によりコスト分析を行う。
- ・ 下刈り回数の比較による成長量への影響及び現場作業の作業強度の変化などを検証することで低コストな造林方法の確立に向けた課題整理を行う。
- ・ 標準伐期齢に達した際は、各試験区の強度試験等を行う。

(海岸防災林)

「生育基盤盛土を伴うクロマツ海岸防災林の健全化に向けた調査」

- ・ 生育状況調査では生育が良好/不良な工区は個体サイズの成長量に大きな変化はみられず、工区ごとに異なる要因が複合的に生育に影響を与えていると考えられた。
- ・ 根茎調査では根の存在が確認されなかった土壌層は滞水しやすい土壌層であることが確認され、生育が不良な工区では地下部の成長を優先し、根が生育不良となっている可能性が示唆された。

「宮城県におけるカラマツの生育適地の検証等に関する調査」

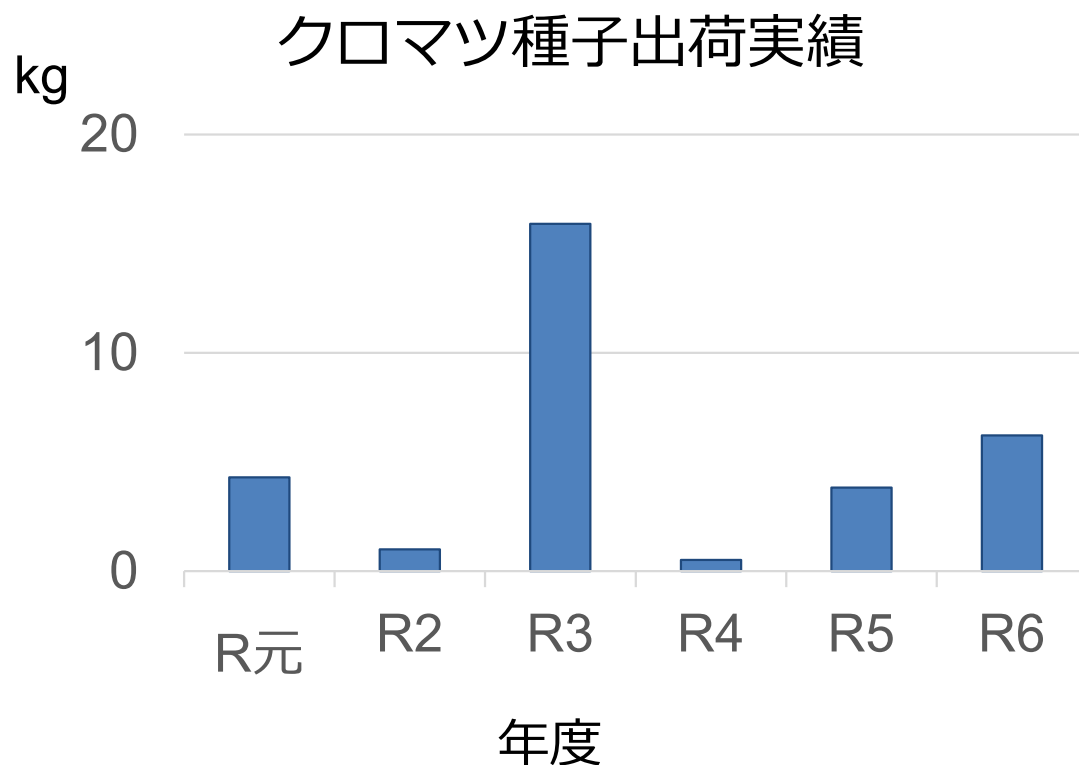
- ・ 植栽されたカラマツの遺伝的多様性を明らかにし、その生育状況や形質を把握することで今後の育種・育林における有益な情報を得る。
- ・ カラマツの生育適地を生育環境の面から検証することで適地適木による植栽を推進するとともに、カラマツの遺伝的多様性を明らかにし、成長や形質に関する遺伝的特性を検証する。



3 評価項目の状況と結果及び対応

5-2.特許取得・品種登録等の状況～林業用品種利用実績～ マツノザイセンチュウ抵抗性品種（アカマツ・クロマツ）

樹種	品種の数	摘要
アカマツ	精英樹 白石10号など6品種	暫定採種園設置
クロマツ	宮城（鳴瀬）クロマツ39号など10品種	平成26年度に1品種追加



抵抗性クロマツ採種園

3 評価項目の状況と結果及び対応

6. 研究報告・発表・成果普及の状況

単位：課題

区 分		R元~3 合計	R4	R5	R6	R4~6 合計	摘要
関係学会誌等 への投稿	(査読あり)	1		1	1	2	木材工業 東北森林科学会誌など
林業関係誌等 への掲載	林業関係誌等	1	1	3	3	7	公立林業試験研究機関 成果選集など
	センター研究報告	7		2	5	7	
	外部機関の報告書	-	-	-	-	-	
学会発表		10	6	8	9	23	東北森林科学会 日本木材学会など
シンポジウム・ 発表会での発表		15	6	5	4	15	成果発表会, 各種セミ ナーなど

3 評価項目の状況と結果及び対応

(6) 研究成果の状況

ア. 産業・社会的ニーズに貢献しうる成果が十分にあがっているか。

評価 A : 2名 B : 1名 適切である

◎指摘事項・意見

- ・規模相応の成果があり、取組への努力が認められる。一方で、産業・社会的ニーズは多岐にわたるため、現状の規模でそれらすべてに対応できる状況にはない。
- ・県産スギによるツーバイ材の研究は、社会ニーズに貢献した取組だったと思う。
- ・研究報告、発表、成果普及など、様々な機会を通じて、情報伝達を行っているので、適切である。



◎対応

- ・限られた体制の中で、優先すべき試験研究テーマを設定し、成果につなげることで県民生活の向上に寄与したいと考えています。また、成果が得られた試験研究については、当センターの成果発表会、関係学会、関係誌への投稿等、積極的な発表に努めています。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(6) 研究成果の状況

イ. 研究成果の普及体制が適切に構築されているか。また、普及実績は十分か。

評価 B : 3名 適切である

◎指摘事項・意見

- ・ 広報・普及へのさまざまな取組がなされ、近年始まったYouTubeチャンネルによる配信など、工夫が認められる。普及による最終的な効果の実態は定かではないが、引き続き積極的な普及活動をお願いしたい。
- ・ 研究成果の普及に関して、関係学会等を通じて発表などが行われており、専門分野における情報発信はなされている。一方で一般の関係者にもわかりやすく伝えることで、研究の社会的意義や効果が期待できるので、一般の人に向けたシンポジウムなど発表の機会を増やしてもよいのではないか。
- ・ 関係誌等での報告、学会発表、シンポジウムなど、様々なチャンネルで普及している。



◎対応

- ・ 試験研究成果の広報・普及については、新しい手法も取り入れながらセンター広報誌「メッサ・みやぎ」、センターの成果発表会、関係学会、関係誌等、積極的に普及活動を行っていきます。また、成果発表会等で工夫するなど、一般向けの情報発信にも努めていきます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(7) 技術支援関係業務等の状況

1. 技術支援・相談の実績～林業技術相談～

区分	R元～R3 合計	R4～R6 合計	主な相談内容
育 林	4	0	
育 種	0	0	
育 苗	4	0	
森林保護	16	0	
木材利用	30	25	木材強度試験
特用林産	63	68	ハタケシメジの栽培技術指導
林業経営	0	0	
林業機械	0	0	
環境緑化	6	0	
その他	8	0	
計	127	93	

3 評価項目の状況と結果及び対応

2.技術支援・相談の実績～特用林産物～

件数

相談方法	R元～3	R4	R5	R6	R4～6
文書・通信	28	8	13	12	33
直接指導（来所）	7	1	5	3	9
直接指導（現地）	17		3	12	15
鑑定・分析	11	6	3	2	11
件数（計）	63	15	24	29	68

相談者別	R元～3	R4	R5	R6	R4～6
法人等	57	13	17	26	56
生産者等	3	2	7	3	12

※延べ人数。法人には自治体含む



3 評価項目の状況と結果及び対応

3. 技術支援・相談の実績～木材等試験～

件数

試験項目			R元～3	R4	R5	R6	R4～6
材質試験	試験材	含水率 (全乾法)	180	30	60	180	270
強度試験	試験材	圧縮	28	0	0	0	0
		曲げ	0	0	0	0	0
		せん断	211	156	188	48	392
	実大材	曲げ	217	126	8	60	194
合板及び集成材 の接着性能試験	試験材	浸漬剥離	0	0	0	0	0
件数 (計)			636	312	256	288	856

依頼者別	R元～3	R4	R5	R6	R4～6
製材・合板製造	7	1	3	8	12
建築・建材	7	5	1	0	6
林業事業体	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

3 評価項目の状況と結果及び対応

4. 研修事業の実績～普及指導事業～

単位：普及対象者数（人）

活動テーマ	R元～3 合計	R4	R5	R6	R4～6 合計
● 林業・木材産業の一層の産業力強化	2,842	3,969	2,586	3,286	9,841



広葉樹フローリングの製品化検討



森林認証材初出荷
(米川生産森林組合)



はたけしめじ菌床伏込み現地指導

3 評価項目の状況と結果及び対応

5. 研修事業の実績～普及指導事業～

単位：普及対象者数（人）

活動テーマ	R元～3 合計	R4	R5	R6	R4～6 合計
● 森林のもつ多面的機能 のさらなる発揮	3,604	764	920	772	2,456



間伐事業の指導



効率的な作業システムの検討

3 評価項目の状況と結果及び対応

6.研修事業の実績～普及指導事業～

単位：普及対象者数（人）

活動テーマ	R元～3 合計	R4	R5	R6	R4～6 合計
● 森林・林業・木材産業を支える地域や人材の育成	2,050	3,197	2,465	3,998	9,660



林業人材育成ステップアップ総合研修



森林作業道オペレーター研修

3 評価項目の状況と結果及び対応

7. 研修事業の実績～人材育成～

研修等の名称	実施日数・受講者数				
	R元～3計	R4	R5	R6	R4～6計
林業事業体等職員及び技能者を対象とした研修	26日間 242人	11日間 58人	7日間 85人	9日間 73人	27日間 216人
一般県民等を対象とした研修 (林業教室等含む)	6日間 176人	2日間 41人	1日間 17人	1日間 22人	4日間 80人
関係団体等が主催し、当センターを会場に開催された研修	160日間 2,547人	93日間 1,381人	100日間 1,747人	106日間 2,078人	299日間 5,206人
みやぎ森林・林業未来創造力 レッジ研修	40日間 811人	283日間 253人	309日間 333人	309日間 327人	901日間 913人
計	232日間 3,776人	389日間 1,733人	417日間 2,182人	425日間 2,500人	1,231日間 6,415人



林業教室 間伐実践講座



里山林の管理基礎講座 伐木教育



市町村担当職員研修



3 評価項目の状況と結果及び対応

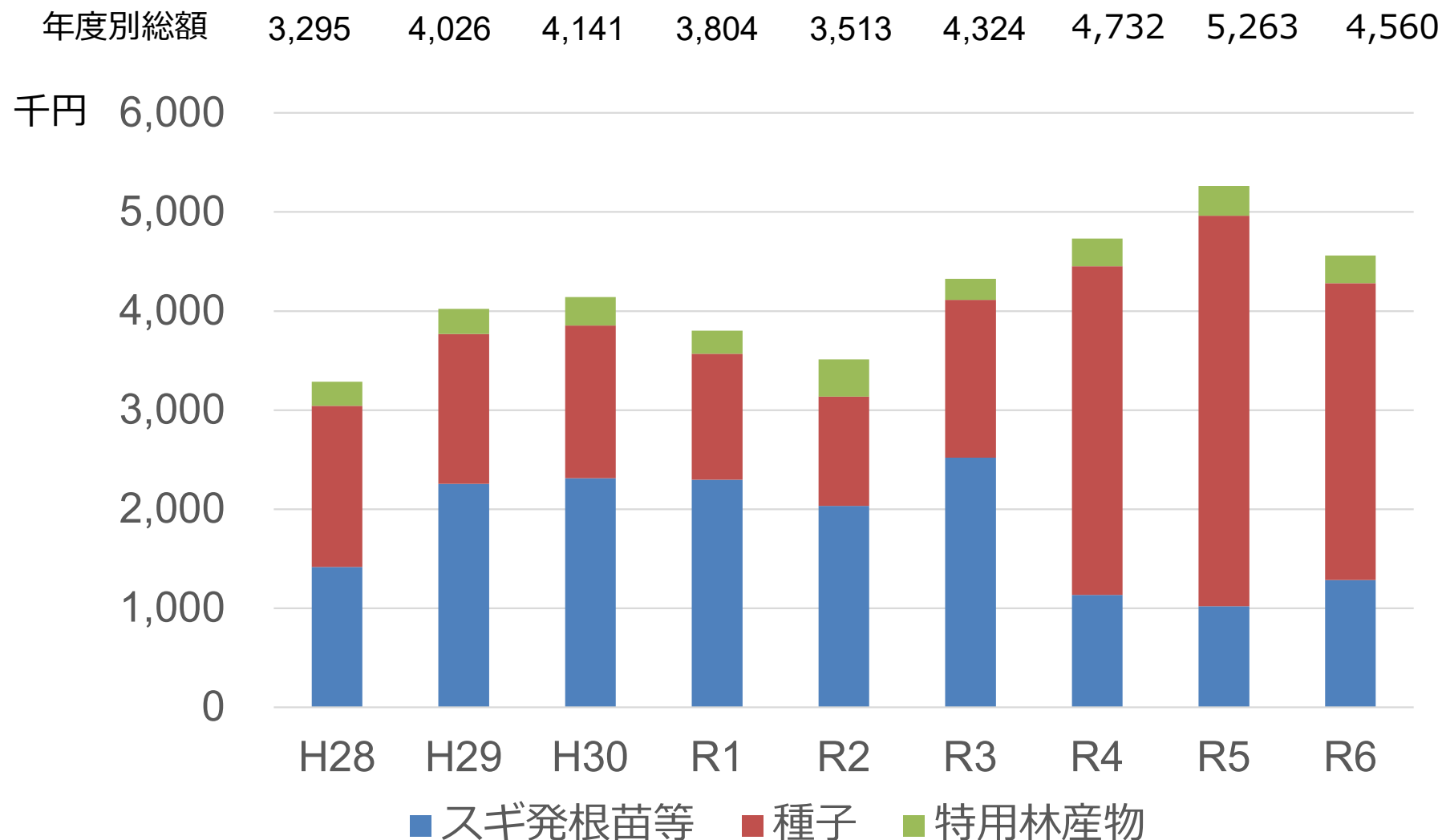
8. 育種種苗等の配布

単位：種子（kg）、苗（本）

区 分	R元～3計	R4	R5	R6	R4～6計
スギ種子	165.3	38.8	34.77	26.1	99.6
少花粉スギ種子	1.2	0.088	0.232	0	0.32
特定母樹スギ種子	0	0	0	11.243	11.2
クロマツ種子	10.5	0.323	1.157	2.2	3.6
抵抗性クロマツ種子	21.2	0.515	3.844	6.218	10.5
ヒノキ種子	56.3	30.6	23.5	28.9	83.0
その他種子	5.0	4.115	2.161	8.188	14.4
種子計	259.5	74.4	65.6	82.8	222.9
スギ発根済み苗等	280,284	121,060	138,900	112,535	372,495

3 評価項目の状況と結果及び対応

9. 種苗等の出荷実績



※生産物販売収入は、作業員の雇用などの予算へ組み込み

3 評価項目の状況と結果及び対応

(7) 技術支援関係業務等の状況

ア. 当該技術支援業務が地域産業の高度化を積極的に促進する業務として組織全体の中に明確に位置付けられているか。

評価 A : 1名 B : 2名 妥当である

◎指摘事項・意見

- ・ 数多くの技術支援・相談の実績がある。センターの業務の中心的な位置付けであると考えられ、業務として着実に実施されている。
- ・ 多様な試験設備と研究実績があるのに、相談件数や試験依頼が少ない現状である。研究成果や技術試験など支援できる内容が、これまで周知していきただけ以外にも情報発信していくことが望まれる。
- ・ 限られた人数の中、技術支援、人材育成などに取り組まれているので評価する。



◎対応

- ・ 技術支援・相談は、試験研究と並んで重要な業務と考えているので、支援・相談に対応できる体制づくりと人材育成に努めます。また、研究成果の普及と同時に支援・相談受付の情報発信を行って行きます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(7) 技術支援関係業務等の状況

- イ. 当該技術支援業務が機関における明確な方針の下で地域産業の高度化に十分貢献し得るものとなっているか。

評価 A：3名 適切である

◎指摘事項・意見

- ・支援業務は活動テーマとして整理されており、方針は明確である。地域産業への貢献を直接評価するのは難しいため、その効果を知ることができる指標があるとよい。
- ・カレッジの研修機関として、通常の研究と研修生への研修、講習、木材業界への支援など林業技術総合センターの役割は、林業・木材産業業界にとって、なくてはならない存在である。

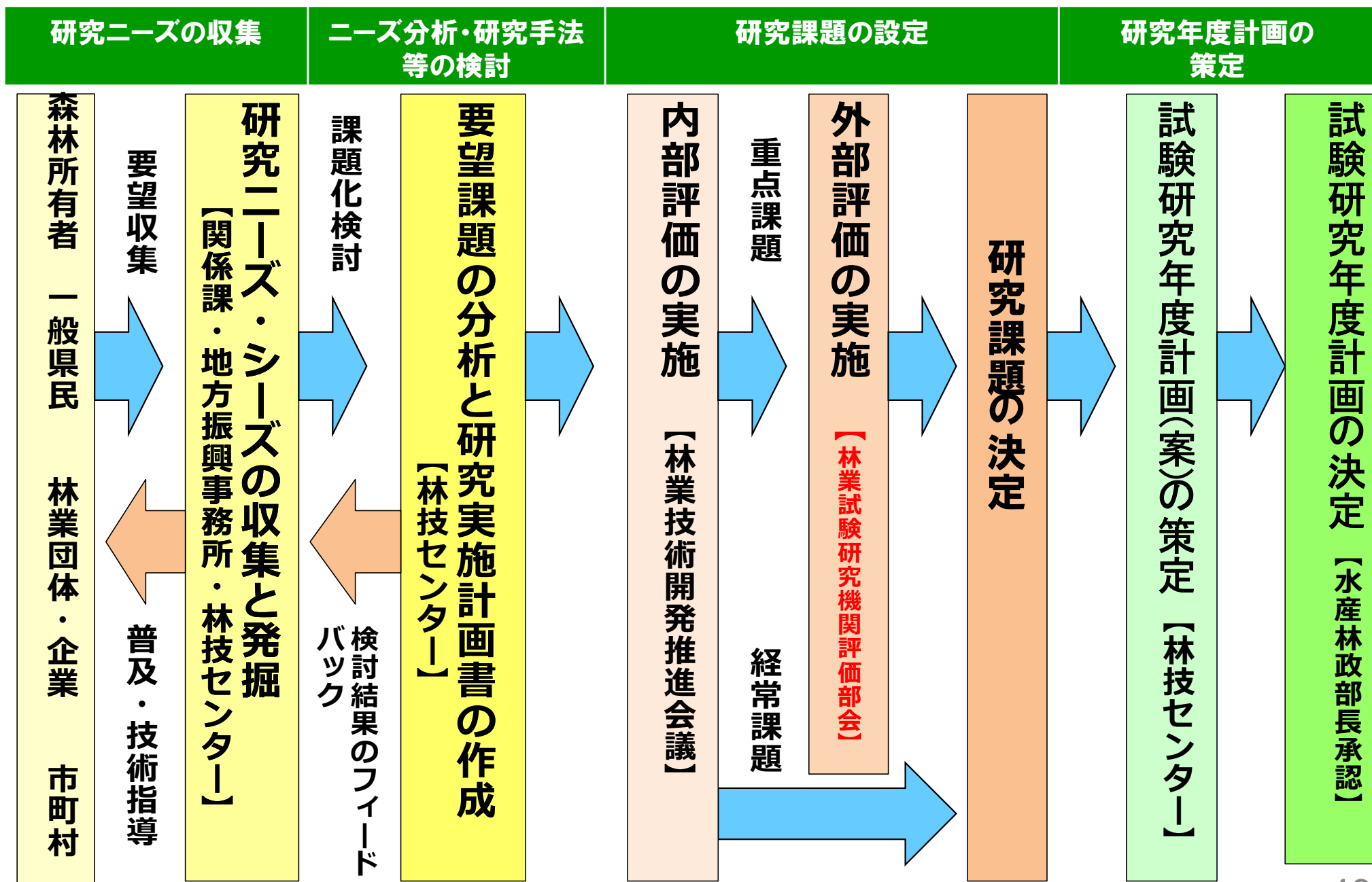


◎対応

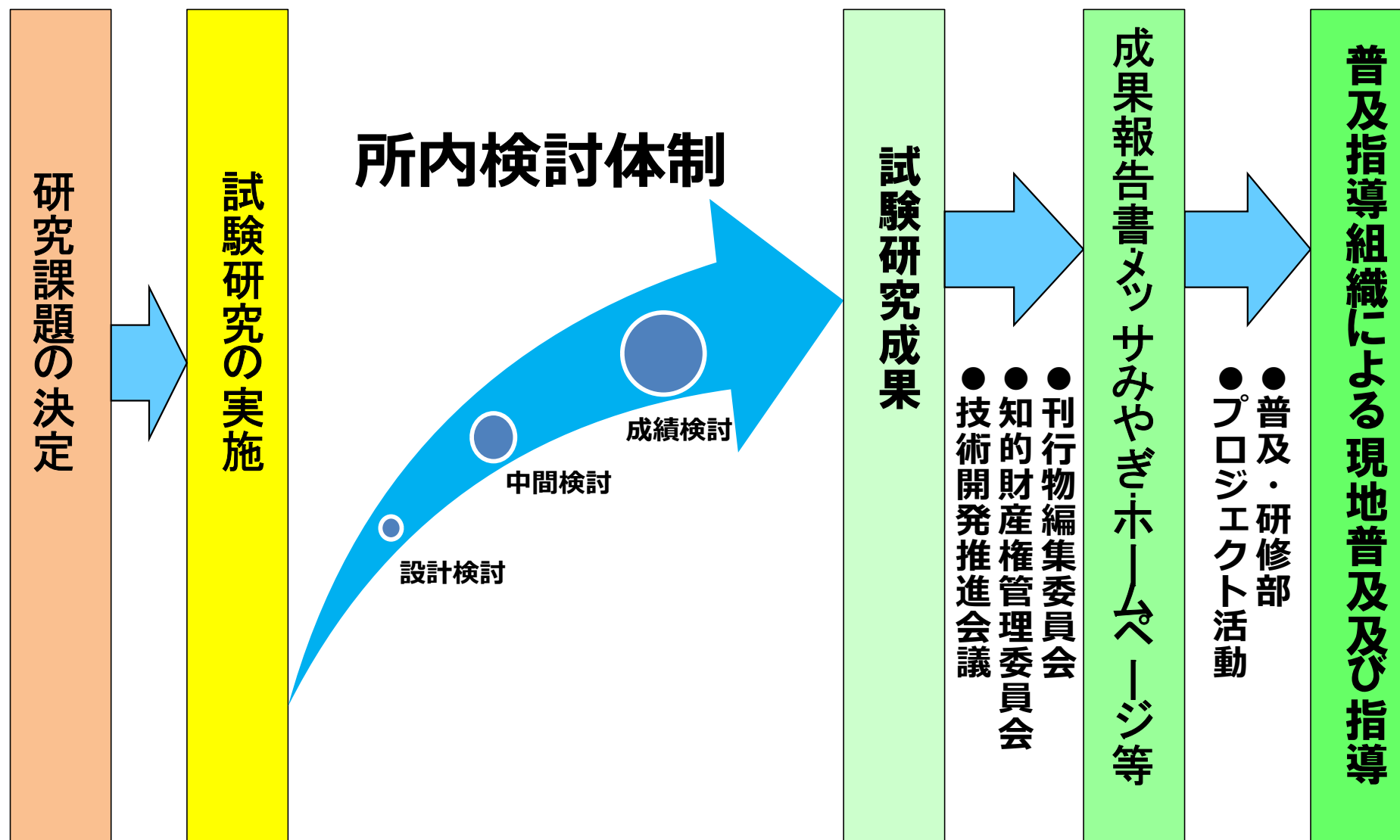
- ・支援業務の地域産業への効果を知る指標は生産額になると思われませんが、当センターの関与分を把握することは難しいものと考えています。
- 当センターは、カレッジの事務局として、労働安全の対策を基本とした技術研修の継続、スマート林業や林業DX等研修の充実により、森林・林業の人材育成に貢献していきます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(8) 研究マネジメント等



3 評価項目の状況と結果及び対応



3 評価項目の状況と結果及び対応

(8) 研究マネジメント等

評価 A : 2名 B : 1名 優れている

●指摘事項・意見

- ・ 堅実なリーダーシップと管理体制のもと、円滑な機関運営がなされているように見受けられる。
- ・ 限られた予算、人材の中、最大限、円滑な運営に努めていると感じる。



◎対応

- ・ 研究課題の設定、進捗管理、評価、成果の公表まで、組織全体で情報共有しながら進捗を図るようマネジメントするとともに、限られた人員、予算の中で最大限の成果を出せるよう努めていきます。

3 評価項目の状況と結果及び対応

(9) 総合評価

評価 A : 2名 B : 1名 優れている

●指摘事項・意見

- ・人員及び予算の面で多くの制限があるものの、相応の努力と成果が認められる。より高いレベルを目指すためには、それらの制限を克服することが必要であるが、そのためにできることは何なのかを考える必要があるだろう。
- ・木材は二酸化炭素排出の少ない環境配慮型建材として、継続的な需要拡大が見込まれると考えられるため、ツーバイ材やCLTに限定することなく、現場で実際に求められている部材や市場動向を的確に捉えた研究展開が望まれる。
- ・無花粉スギの開発など、県民はその研究成果を待っている。また、林業労働力支援、教育機関としても重要な役割を果たしている。明確な目標を掲げ、地域の貢献は大である。



◎対応

- ・試験研究のより高いレベルを目指し、現場ニーズの収集と成果の発信を念頭に人員や予算の制約の克服について考えていきます。また、木材産業における技術開発、無花粉スギ品種の開発等個別の試験研究について、早期に成果を得られるよう進めていくとともに、カレッジ研修の充実を図っていきます。

(10) その他意見等

●指摘事項・意見

- ・社会的ニーズは刻々と変化しており、研究には一定の時間を要することから、常に現在の社会状況に即応した研究を行うことは容易でないと考えられます。
- ・近年、クマが人の生活圏に頻繁に出没し、人的被害が発生している状況を踏まえると、森林に生息するクマの生態や行動特性について、林業関係機関である林業技術総合センターにおいて対策研究を行うことも検討に値すると考えられます。
- ・近年増加傾向にある大規模な山火事についても、温暖化との関係性や今後の発生傾向を分析するとともに、被害軽減や予防に向けた対策を検討するなど、従来とは異なる視点からの新たな課題への対応が求められていると思います。こうした社会的変化を踏まえて、研究テーマの在り方についても柔軟な検討が必要ではないかと考えます。
- ・林業の労働安全指導者及び高性能林業機械の指導者が足りないようなので育成よろしくお願いいたします。



◎対応

- ・刻々と変化する社会ニーズの内、喫緊に対応を要する課題について絞り込み、迅速に試験研究を進めていきます。なお、クマ、山火事についての試験研究は、長期の継続的な調査、研究の積み重ね等が必要なことから、森林総合研究所等に委ねたいと考えています。

林業の指導体制については、カレッジとともに研修を担っている団体と連携しながら、より充実した研修の提供を目指し、指導者となり得る人材の育成に取り組んでいきます。